

4号機原子炉と日本の運命

The Fourth Reactor and the Destiny of Japan

松村昭雄

2011年9月29日

福島第一原子力発電所の事故以来、著名な科学者の方々のご意見をご紹介してまいりました。読者の方々からは多くの洞察力に富む応答を受けました。原子力に関し素人と言うべき私は、今後数百年に亘りその地域に影響する潜在的な問題や特殊用語などを学んでいるところであります。



福島第一原子力発電所4号機

私が人口問題から民主主義へと40年に亘る国際的な仕事をする中で学んできた数々の問題も、この二万年近くにわたり我々の子孫に影響するであろう原子力災害に潜在する問題に比べたら近視眼的だったとさえ思えてしまいます。

皆様もお気付きのように、2011年1月に私は世界中におられる広島と長崎の生存者がノーベル平和賞を授与できるようキャンペーンを始めました。専門家の方々からの強い支援記事が私を勇気付け、多くの政治関係の友人達はその意図が無視される事はないであろうと私に保証してくれました。彼らは私のこの提案について、時宜を得ており核兵器に伴うリスクについて世間的な認識を増大させるものになるだろうと同意してくれたのです。

然しながら、福島原発災害がこのキャンペーンは原子核問題を扱うに十分ではないということに私に確信させました。私は今、原子力発電は核兵器に匹敵するリスクを持つものであるということに悩まされています。漏れた放射能は広範な地域を何世紀にも亘り居住不能にするのです。福島原発周辺はその一つとなるかもしれません。そのような災害規模の可能性を考えることが、私にエネルギーの必要性と人類の安全性のバランスということにつき深く考えさせる事になりました。

国連事務総長のバン・キムーン氏は、第66回国連総会開催中の2011年9月22日に原子力安全保障に関するハイレベル会議を招集しました。会議は福島第一原子力発電所での事故に引き続き対応体制、原子力安全と国際的緊急問題の備えの強化、について国際コミュニティーの行動を基とするものでした。

バン氏は「原子力事故の影響というものは境界を尊重することなどありません。我々の民を適切に保護する為には強い国際的な総意と行動が必要です。我々は強固な国際安全基準を持たなければなりません。この意図は明白であり統一的なものです。平常のビジネスとして受け取ることではできません。我々全てが正しく行えるかどうか懸かっているのです。明らかに、より大きな透明性と公開責任があります。我々は大衆の信頼を再醸成せねばなりません。」

日本政府と東京電力は原子炉の炉心溶融の実際のタイミングの論議やこの危機に関する他の情報について信頼しかねる裁定者として、広くから非難を受けました。こうした透明性や責任というものは原子力エネルギーと密接に繋がっており、そのことが懸念の原因なのです。

許しがたい事であり改正が必要とされますが、これらの欠陥は原子力問題の複雑さと国家安全保障協議事項のトップに位置することが一部の原因ともなっているのです。

1. 原子核関係テロリスト問題（核拡散）は国の実存する最大の脅威です。原子核問題は多大で多様な結果を導く可能性があります、先ずは原子力発電所の建築から始まるのです。
2. 原子力事故は広大な地域からの多数の緊急避難を必要とします。
3. 意思決定者は大事故が社会的に、結果として政治的に、過激な反動を引き起こすことを恐れます。
4. 政府と原子力業界は共に責任があり、原子力危機に対してもっともな解決策を見出すには大きな利害を持ち合わせます。

核戦争や原子爆弾が及ぼす損害は計り知れないものですが、世界中にある440の原子力発電所の内のどこか一箇所でのたった一つのミスさえもが人類と環境への何年にもおよぶ途方もない被害を引き起こすのです。自然の力の前では我々の技術など無力である事を思い起こさねばなりません。

特に原子力事故が起きた後では、政府と業界の透明性が極めて重大です。大衆の緊張感を和らげる為には政治家は常に最悪の場合のシナリオを準備すべきです。しっかりと準備された対策があれば、おそらく大衆は実践的な反応をして危険な状態に適応するでしょう。残念な事に日本はこれを未だしておりません。

過去数週間の間、私は日本政府や党首脳の方々とこの緊急問題について話をしてきました。驚く事にほとんどの方々がこの危険な状態に気付いていませんでした。私は多くの著名な科学者

と共に、格納容器の外の二階でバランスを取っている1535本の核燃料棒(訳注:核燃料ユニット)の収められたプールがある、4号機の危険な状況について強く訴えてきました。

もし、核燃料棒が地上に零れ落ちたら大惨事が起き、東京と横浜の閉鎖を余儀無くして広大な避難地域をつくることとなるでしょう。私が話をしてきた全ての科学者が、もし構造物が倒壊した場合には、我々は科学の未だ経験した事のない経験をはるかに超えた状況に陥る、と言っています。日本の運命は変えられ、災害は健康、移住、地政学の面で、間違いなく近隣諸国と残りの世界の国々の安全を危うくするでしょう。日本政府は、使用済燃料プールとその支持構造物の安全性を測定する為、直ちに独立した評価チームを作るべきです。これは何よりも重要なことなのです。この構造物の安全確保は、国の将来にとって重大な意味を持つのです。

3月11日以前、私は日本の運命またどの国の運命もが、これほど抜本的に急激に変えられてしまう事があるとは想像もしておりませんでした。

原子力発電所は、かつて我々の立ち向かった事のない成り行きを伴う多くの新しい挑戦を引き起こします。未来世代の為にネガティブな結果となるかもしれぬ原子力発電所の価値を実践的かつ倫理的レンズをもって我々は再考する必要があります。

著名な英国の核物理学者であるブライアン・フラワーズ卿が「もし原子力発電所が第二次世界大戦以前のヨーロッパで建設され展開されていたなら、従来型の戦争とそうした原子力発電所に向けた破壊行為でヨーロッパの広大な部分が今日居住不能となっていたでしょう。」と指摘しました。つまり原子力発電所への不十分な電力供給で同じ成り行きとなっていたのであります。

(翻訳：木村道子)